

【第12回人材育成学会研究会開催のご案内】

日本企業の人的資源アーキテクチャの転換と人事部門の役割 ～経営戦略と働く人々を繋ぐ鍵をになうCHOの役割を中心に～

人的資源アーキテクチャとは、人材マネジメントというサブシステムを、経営戦略や組織といった関連する他の要素とどのように結びつけるかという「外部連結の仕方」と、いわゆる人事制度に代表される「システム内部の整合性の達成」をどのような理念とポリシーのもとに行うかという、システムの設計と運用原理に関する基本的な構想です。現在、多くの日本企業では、経営戦略と人材マネジメントとの直接的な連結の強化が指向される一方で、実力終身主義と呼称されるような成果主義を基調とする新たなポリシーの下に人事制度の設計と運用が行われています。そこでは、明らかに人的資源アーキテクチャの転換が図られているといえるでしょう。

カリフォルニア大学のジャコービ氏は、人事管理者とは、「雇用の諸問題を企業戦略全般と関係づけることをその仕事とする人々である」と述べています。こうした指摘を待つまでもなく、日本企業の人的資源アーキテクチャの転換過程で人事管理者、特に「CHO（人事担当責任者）」の果たす役割は非常に大きなものがあると思われれます。そこで、今回の研究会では、日本企業におけるCHOの機能と役割、および課題に焦点を当てて、議論を試みることにしました。

まず、今回の企画者（産業能率大学、腰塚弘久）から、最近の実態調査の結果に基づいて、日本企業の人的資源アーキテクチャの転換の現状について簡潔に報告させていただきます。次に、日本企業のCHOのあり方について継続的な調査研究をすすめておられる、日本CHO協会事務局長の須東朋広氏から、CHOの機能と役割を捉える概念的な枠組みとそれに基づく日本企業の実態についてご報告いただきます。また、三菱商事の和光氏には、実務家としてのお立場から、転換期における人事部門とCHOが果たすべき役割について、お話しいただきます。司会とコーディネーションは、産業能率大学大学院の城戸康彰先生にお願いしました。

多くの方々にご参加いただき、意義ある研究会になればと願っております。ご多用中とは存じますが、ぜひともご参加いただきたくご案内申し上げます。

日時： 2008年3月30日（日） 13:30～17:20

会場：（学）産業能率大学 代官山キャンパス（所在地：〒153-0042 東京都目黒区青葉台1-4-4）

プログラム：

- | | |
|---------------|---|
| 13:00 ～ | 開場、受付 |
| 13:30 - 13:45 | 【司会】 城戸康彰氏 産業能率大学大学院教授 |
| 13:45 - 14:30 | 【報告1】：「日本企業の人的資源アーキテクチャの転換」
腰塚弘久氏 産業能率大学経営学部教授 |
| 14:30 - 15:30 | 【報告2】：日本企業のCHOの機能と役割、そして課題
須東朋広氏 日本CHO協会事務局長 |
| 15:30 - 15:45 | 休憩 |
| 15:45 - 16:30 | 【報告3】：人事部門とCHOが果たしている役割と果たすべき役割
和光貴俊氏 三菱商事株式会社 経営企画部人事担当次長 |
| 16:30 - 17:20 | 【全体討論】 |